

令和4年 第1回奈井江町総合教育会議議事録

	<p>1. 開会 12:55</p>
<p>松本事務局長</p>	<p>皆さんお集りですので、第1回奈井江町総合教育委員会を主催してまいりたいと思います。 次第2番目、町長挨拶と以降の議事進行について町長にお願いをいたします。</p>
<p>三本町長</p>	<p>2. 町長挨拶 改めまして、先日成人式でもお会いしていますが、今年もどうぞよろしくお願ひいたします。 教育委員の皆さんには、昨年、教育ビジョンの策定という大変大きな仕事を進めていただきました。多くの町民の方のご意見をまとめ、たくさんの時間を費やしていただいたこと、心からお礼を申し上げたいと思います。また今日の総合教育会議においても、教育ビジョンを踏まえて、奈井江町のまちづくり計画と改めて整合性を図っていくことと、具体的にどのようなかたちで実践していくかということの足掛かりになる会議になると認識しております。皆さんから、従前にもまして忌憚のない意見交換の中で、子育て、教育についてしっかりと向き合っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
<p>三本町長</p>	<p>それでは、次第3番目、報告第1号「令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について」事務局より説明をお願いします。</p>
<p>井上係長</p>	<p>3. 報告 議案1ページをお開き願ひます。 令和3年度全国学力・学習状況調査について この調査は、全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的に実施されています。この他、生活状況などについての「児童生徒質問紙調査」が全国的に実施されました。 また今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等により昨年度の調査が中止されたことにより2年ぶりとなりました。調査実施日は、令和3年（2021年）5月27日（木）、対象学年は、奈井江小学校第6学年28人、奈井江中学校第3学年25人、教科は、小学生が国語と算数、中学生が国語と数学となっております。1ページは教科ごとの数値比較、2ページは北海道版調査結果報告として北海道が取りまとめ公表した資料になります。 【教科全体の状況】には、教科の領域別に全国を100とした場合の、全道及び当町のレーダーチャートが示されています。 小中学校ともに算数（数学）において、全道・全国より大きく下回っている状況です。P2の領域別にみると、小学校では、国語（話すこと・聞くこと）（言葉の特徴や使い方に関する事項）において全道・全国に近い数値となっておりますが、（読むこと）・特に（書くこと）については、全国・全道より大きく下回っており、算数については、どの領域も下回っています。特に（数と計算）については対全国比の58%、（図形）については65.8%にとどまっています。中学校においては、国語の（書くこと）が全国・全道より10%程度上回っていますが、その他の領域、特に（読むこと）において低い状況にあります。 数学については、小学校同様、どの領域においても下回っており、特に（図形）については、対全国比58.4%という状況です。</p>

井上係長	<p>【質問紙の状況】には、学校質問紙調査や児童生徒質問紙調査の結果から、成果が表れているデータ、市町村独自の取組の特色が表れているデータが掲載されています。</p> <p>学校への質問として、算数において「問題の解き方や考え方の家庭が分かるように工夫してノートを書く指導を行った」が100%と、全道・全国に比べ大きく上回っており、児童においても「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」の質問に対して、全道・全国より「そう思う」と答えた割合が高い傾向にありました。</p> <p>しかし、さきほどお話したように「教科全体の状況」としては、算数については、大きく下回っていることから、学校での指導と子ども達の学習の定着においては大きな乖離が見られ、今後の学習方法・取組みへの課題が見られます。</p> <p>中学校においては、ICTを活用した授業が活発に行われており、国語の授業に対する取組みを工夫することにより、国語の授業の内容がよくわかるという点で、全道・全国を上回っています。</p> <p>小中ともに、国語の読むこと、算数(数学)における基礎基本の定着が大きな課題であり、【奈井江町の学力向上策】としても挙げられているように、家庭学習習慣の確立と、活字に慣れ親しみ、読解する力をつけるためにも、読書活動の支援に力を入れていきたいと考えています。</p> <p>以上、事務局からの説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
三本町長	<p>事務局から説明がありましたが、教育委員さんについては、すでに報告を受けていることと思いますので、それぞれの感想を持っていただいていると思いますし、議論もされているのかとは思いますが、特に何か皆さんの方から、思ったことなどはありますか。</p>
三原委員	<p>前にも話したかと思いますが、私はこのテストが大好きで、ただ丸暗記の知識だけではまったく役に立たないのです。私が思うに、問われている力は2つ。1つは「読む力」、そして「物事を考える習慣があるかどうか」です。例えば、「これはボールペンです。」と言われて、「書くもの」だけで終わるか、「どうしてボールって付くのだろう。どういう仕組みでできているのだろう。」と考える習慣があるか、無いかを試されているような、この問題を作った人は立派だなと関心させられる内容になっています。そのことを考えた時、教育委員会の取組みとして、「ななかま」でやろうとしていることは、方向性は正しいのかなと思っています。そういう力を伸ばそうとしているという点で、とても良い取組みだと思います。ただ、すぐ結果が出るものではないので、時間はかかるとしています。</p>
矢萩委員	<p>小学校の算数ができないので、中学校の数学ができないという結果は、その通り仕方ない状況だと思います。基礎ができていないのだと思います。「ななかま」を立ち上げるときに、基礎学力のない子たちをどのように救い上げるかという議論もあったように思っていますが、実際に、そのような子たちが通っていない実態もあるように思います。私の教室に通う子でも、基礎が見に付いていない子がいて、こういう子こそ「ななかま」に行く必要があると思うのですが、通っていません。どうしてかを問うと、「面倒くさい」「勉強したくない」という始末です。そもそも、そういう子は、「ななかま」にさえ行きません。そういう点に課題があると感じています。「ななかま」の先生とも話すのですが、このままでは学力は上がらないとも感じています。では、どうしたらいいのかと考えたときに、場所を学校にするべきだと思います。わざわざ、場所を変えることで、通わない子が増えていると思います。</p>

矢萩委員	<p>できないことを学校の中で完結させる方がいいと思います。放課後に、基礎のできていない子を強制的に残らせて、学校の先生がしっかりと教える、それが難しいのであれば、ななかまの先生が、学校に行き行って教えるといった方が学力は伸びるのではないかと思います。</p> <p>基礎基本ができていない子は、自分で何がわからないか、苦手かということもわからないので、「ななかま」にいても、「何を勉強すればいいのか」「何を先生に聞いたらいいいのか」もわからないと思います。学校の先生との連携がどこまでできているのかはわかりませんが、学校と「ななかま」で「この子はこの単元のどこが苦手なので、この辺をしっかりと教えてあげて欲しい」といったように、しっかりとサポート連携していけば、学力の底上げができるのではないかと思います。</p>
三本町長	<p>「ななかま」の運営に係る意見に議論が偏ってきてしまっているのでは話を少し戻しますが、この学力学習状況調査の結果を見た中での矢萩委員の課題としては、本当に勉強が必要だと思われる子が、「ななかま」に通っていないことが問題ということでしょうか。</p>
矢萩委員	<p>そうです。</p>
三本町長	<p>林委員はどうですか。</p>
林委員	<p>私も、さきほど三原委員が話していましたが、今の子ども達は「考える」ということが少ないと感じています。特に、漢字や国語の学習に関しても辞書を引くことも少なく、文章を読む力、書く力も足りていないと思います。ただ、勉強ができる子はできるという実態であり、やはり、勉強のできない子の底上げが課題だと考えます。</p>
三本町長	<p>堀さんはどう思いますか。</p>
堀教育長職務代理	<p>みなさんの言っているとおりでと思います。</p>
三本町長	<p>常々教育長とも話をしますが、この全国学力状況調査の結果を引き上げることが、教育行政の最大の柱であることは間違いなくと思いますし、基礎学力の向上への取り組みも何ら異論はありません。ただ、今みなさんが言われていたように、公設塾に行かない、「勉強に関心がない」という子を無理に行かせることが必要なのか。逆に言うと、そういう子ども達は、別の個性があって、その個性を伸ばすことも大切なことのように思うのですが、どう思われますか。</p> <p>これから、GIGA スクールなども進んでいくと、教育情報の提供スピードは速くなっていくと思いますし、その中で育っていく子供達は画一化や均一化し、個性がなくなっていくように思います。スマホを利用することによって、考えなくても答えがでる時代になってきている。便利になってはいますが、私たちがやってきた学びとは根本的に変わっていることもあって、どうなのかなと思います。みなさんの話を聞いていて、これからの教育の在り方もわからないなど。ここで議論することではないと思いますので、それぞれ考えていただいて、みなさんが検討していただいた教育ビジョンにも盛り込まれていたと思いますので、個性を伸ばすことも考えてもらえたらなと思いました。</p> <p>「基礎学力」という言葉にこだわっていくことも当然必要だとは思いますが、公設塾に来たがらない子供たちをどのように関心を向けるかということが最大のテーマです。中学生になってからでは遅いので小学生から、ということで公設塾を小学生にした経過もあったと思います。</p>
三本町長	<p>そのことについて、教育委員会でしっかり議論していただけたらと思います。みなさんから、何かありますか。</p>

林委員	今の子ども達は、辞書を見ないのです。
三本町長	辞書自体買わなくなっているのでしょうか。辞書も情報化されていますよね。
林委員	今は紙ではなく、アプリですね。
三本町長	辞書がデジタル化され、調べたいものを調べたらすぐに出てくる。私たちの時代は、広辞苑を買うのがステータスでしたよね。今は、スマホで検索すれば、なんでも答えが出てくる時代ですし、そろばんや計算、かけ算ができなくても電卓を使えば答えが出ますよね。子ども達にとっては、基礎学力が果たして今の時代必要なかというところになってしまっているところもありますよね。先ほど三原さんが言われたように、ボールペンがなぜボールペンというのか、という着眼ができるようなことを醸成するのか、そういうことに主眼をおいた教育にするのか、それとも学力の底上げをすることに主眼をおくのか、それによって大きく教育の方向性は変わると思っていますので、みなさんで議論しながら進めていただきたいと思います。
堀教育長職務代理	そう考えると、子ども達へのアプローチの仕方が間違っているような気がしてきました。目先の数字ばかりではなく、「ななかま」で取り組んでいる、「宇宙」との交信や、色々な活動から勉強が必要であると感じること、自分にとってそれが必要と思わないと子ども達は自分から勉強はしないですね。学校は決められたカリキュラムがあるので、授業中心になるのは仕方ないのですが、「ななかま」は違うアプローチでいいのではないかと思いました。今のように色々な取り組みを通じて、子ども達に学ぶ事の必要性を自分で感じとるように。
三本町長	大人になってからの仕事も、関数などがすでにパソコンに入っていて、仕組みや理屈が分からなくても、入力すれば答えがでる、そういう時代ですからね。
堀教育長職務代理	とはいえ、テストや受験の時は、スマホは持ち込めないので、やはり基礎学力は必要になります。
三本町長	そうですね。そういうところをどのように醸成していくかということになっていくのだと思います。 そこは、今「ななかま」の皆さんが色々な取り組みを行い、子ども達の知的好奇心を刺激する仕掛けを通じて、それぞれの学びに繋げていくということを期待しているということです。
相澤教育長	そうですね。
三本町長	全国学力状況調査の報告を受けている中で、違う方向性の話をしているところではあるのですが、かといって個性を尊重した教育が必要ないとも思っていないですよ。
三原委員	私は、ある程度までは、首根っこを掴まえてでも学ぶべきことは学ばせる方です。かけ算ができなくても、それでいいよとはやはり言えません。そこまでは、少なからずやるべきだと、大事なことだと思います。
堀教育長職務代理	かけ算の話で行くと、ただかけ算を覚えることが大事なのではなくて、5個の塊が3つあったら、5を3回足すのではなくて、 5×3 ができれば早いわけですよ。必要性を感じると学ぶ意欲に繋がるというか、学ぶ価値が見いだせるというか。そういうアプローチが必要なのではないかと思います。
三本町長	フィンランドの教育を見てきた松本局長から何か意見はありませんか。まさに、フィンランドの教育は $2 \times 5 = 10$ ということではなく、10はどのようにできているかという観点から勉強をしていたと思いますが、そういう教育を見てきた立場からどう考えますか。

松本局長	1つの答えがあったとしても、アプローチの方法は1つではないと思いますので、それぞれの委員さんがおっしゃっていたことがまさにそうだと思っています。今後GIGAスクールが進んでいったとしても、あくまでの1つのツールでしかないと思います。子ども達が自ら考えることは必要なことだと思いますので、「ななかま」の話も出ていましたが、子ども達の学ぶ意欲が高まるような取り組みを行っていくことが大切と考えています。
三本町長	そうですね。色々な角度から協議していただき、進めてもらえたらと思います。それでは、報告につきましては、ここまでいたします。 続きまして、次第4番目、意見交換に進みます。 「令和4年度教育行政(案)について」事務局から説明をお願いいたします。
事務局	4. 意見交換 議案に基づき説明 ① 第6期まちづくり計画基本構想(修正案)及び後期実施計画(修正案)について…松本局長
三本町長	新たな教育ビジョンを踏まえた上での文言整理ということで、教育委員会の中でも議論されたと思うのですが、まちづくり計画は他の担当部署とからむことでもあります。文言整理など、一度こちらの案を受け止めさせていただいた上で、協議をさせていただきたいと思います。このままの案でいかないかもしれないということをご理解いただければと思いますが、特に皆さんの方から、ここはというご意見や付け加えておきたいことなどはありますか。 碓井副町長からは何かありますか。
碓井副町長	事務的な話ではありますが、議案4ページの政策自体が「心豊かに学びつづけるために」から「学び続け人生を豊かにするために」と修正されています。大きく主旨は変わっていないという捉え方でよいと思いますが、目的が「学び続ける」ことなのか「人生を豊かにする」なのか、ということで、まちづくり計画は理念からスタートし過去も包括しているので、令和4年度からここを変えると、過去は何だったのかということにもなってしまうかもしれない。そして政策の内容の部分でも、従前にうたっていたことが、修正案には触れられていないこともあるので、そこの整合性などはどうなのかということ。新たな教育ビジョンが策定されたということで、ビジョンに合わせた修正を行うことは理解するのですが、従前の基本的な理念を文言として残す必要はないのか、というところが気になるところです。
三本町長	新しい教育ビジョンによる政策の修正案ということで理解しますが、先ほども言ったように、その他の部署を含め内部で協議して整理していきますので、ご理解をお願いいたします。 どうしてもこの言葉でなければという箇所はありませんか。
委員	ありません。
三本町長	それでは、4ページの町議会に提案が必要となる部分については、改めて内部で議論させていただきますので、よろしく願いいたします。 そして、5ページ以降の実施計画については、かなり具体的に書き込まれているので、後々その都度修正が必要になるとどうなのかということもあり、そのところが私としては少し気になっています。あとは、まちづくり計画策定当初ではなかった、GIGAスクールのことなどは、当然新たに記載されてくることとなりますので、そういう点については、追加されるべきだと考えています。
三本町長	そして、6ページの「②子どもたちの未来を想像し、小・中学校の一貫教育など、意欲的に学ぶ環境について検討します」と、「一貫教育」について一歩踏み込ん

三本町長	だ表現になっていますので、みなさんの意見を聞かせていただきたいと思います。これについては、教育委員会の中でも議論がされたということでもいいのですか。
相澤教育長	新たな教育ビジョン策定の段階で、議論したところです。
三本町長	わかりました。では、新たなビジョンを踏まえた上で、この表現でいくということに理解しました。 あと、7ページの「⑦奈井江商業高等学校」の箇所で「英語指導助手の派遣」とありますが、ここは学校との協議も済んでいるという理解でいいのですか。
相澤教育長	英語指導助手も2名に増え、「商業高校にも1名派遣できますよ」ということで申し入れ、高校の方でも「ぜひ」ということで、既に商業高校には1名派遣している状況です。
三本町長	既に派遣しているということなのですね。わかりました。 あと、同じく7ページの下「⑦20歳の節目を祝福するため」というところで、「20歳」ということは、どこかで話し合いはされたのでしょうか。
相澤教育長	昨年秋、社会教育委員会会議の中で議論をし、教育委員会でも協議をしています。
三本町長	全国的にも18歳で行うところは2割くらいしかないとのことでしたが、色々なことを総合的に考えて決めていく必要があると思いますし、自治体によっては、その年代の子たちにアンケート調査を行って決めているところもあったようです。決定までのプロセスとして、そのような方法で決めたということ、いいのですね。
相澤教育長	はい。
三本教育長	特に若い子たちから18歳が良いというような意見とかは聞こえてこなかったのですか。20歳の子どもをもつ井上係長、何か子どもさんから聞いていますか。
井上係長	子どもと話す中では、やはり20歳の方が良いという話はしていました。18歳ですと受験する生徒もいて、そういう気持ちにはなれない人もいるのではと言っていました。そして、高校を卒業して数年してから再会するといったことも楽しみでもあるとのことでした。18歳ですと、ほぼみんな高校生で顔見知りの状況ですので、成人式といっても新鮮ではないという話を友達ともしていたようです。
三本町長	確かに20歳というのは自然というのはわかります。ただ、まちづくり計画の実施計画に書き込まなくてはいけないことなのか気になりましたがどうですか。
相澤教育長	これに関しては、従前の実施計画に「成人式」のことが書かれていたので、そのような表現に修正した方がいいという判断でした。
三本町長	なるほど。わかりました。
碓井副町長	あと7ページの「4.多様な教育機会の支援を推進します」の「⑧児童生徒の学習意欲の向上や家庭学習の定着に向け、家庭と連携した取り組みを実施します」とあるのは、5ページの「1.学校教育を充実します」の項目ではないのですか。あえてこの「多様な」の項目にしているのですか。
井上係長	来年度の予算の中で、算数検定親子でチャレンジなど、家庭、保護者を巻き込んだ形での取り組みを計画しています。また、新たな教育ビジョンの中でも、「学び」は子ども達だけではなく、「生涯学び続ける」ということもうたっていることから、「学校教育」だけではなく「多様な教育機会」という項目の中にあえて記載したところでもあります。
副町長	わかりました。

三本町長	8ページ「1. 生涯学習活動を推進します」の「⑤団体やサークルに対し、講師などの情報提供や活動をコーディネートする支援を行います」とありますが、イメージがあまりできないので、具体的にどのようなことか教えてもらえますか。
大久保係長	過去に「人材バンク」をやっていたこともあるようですが、古い資料で見つけれず実際にどのようなということが、私自身確認できていない状況です。ただ、現状として、すぐに講師になれるような人材は不足しており、これからサークル活動などを通じて、講師になれるような人材の掘り起こしを行っていきたいと考えています。
三本町長	大学の先生など町外から講師を呼んでとか、そういうことではないということですね。
大久保係長	はい。町民の中で講師になれるような方を育てていくイメージでいます。ただ、サークル活動の中で、町外から講師の先生の話を知りたいなどといった要望があれば、こちらでおさえているデータから紹介するなど、支援体制を整えていくことも考えています。
三本町長	「⑩地域で子どもの成長を支えるため、地域学校協働活動を推進します」とあるのも、分かるようで分からないのですが、説明をお願いします。
松本局長	コミュニティ・スクールを推進していく中での活動の1つになります。公民館や地域など色々な部分での活動が包含されるものになります。
三本町長	学校運営協議会いわゆるコミュニティ・スクールの中の活動の1つということですね。
松本局長	そうです。
三本町長	具体的にどのようなことをするなどは決まっていますか。
松本局長	今既にやっているものではありますが、田植え体験や、企業訪問などがあります。
三本町長	「⑧学校と連携して、図書室の環境整備と読書活動を推進します」というのは、何年前にも学校図書充実ということで取り組んでいたような記憶がありますが、どのようなことですか。教育委員さんの中でもイメージは共有されているのでしょうか。
松本局長	前回の教育委員会の中でも説明させていただいており、教育委員会の中では情報共有されていますが、改めて説明いたします。
大久保係長	平成27年に小学校と連携し、うちの司書と道立図書館の職員で学校図書室の整備を行なっております。その次は、中学校ということもあったのですが、書架も古く、古い本も多いとことで、少しずつ整理をしていこうということではあったのですが、本来の町図書館の仕事や学校との連携がうまくいかず、進んでいません。そこで来年度、地域おこし協力隊を活用して進めていきたいと考えています。まず、古い本の整理、目録の作成、その上で図書室の開館時間の延長し、子ども達の本に触れる時間を増やすといったことに取り組んでいきたいと考えています。
三本町長	小学校についての整理は終わっているということですね。その効果はどうだったのでしょうか。
大久保係長	図書の読み取りシステムを導入しましたので、子ども達が自分たちで本のバーコードを読み取って本の貸し出し管理が可能となったこともあって、本の貸し出しは増えました。
碓井副町長	予算査定時に聞いていたのは、図書館司書が学校に出向くので、町の図書館業務が手薄になるため、協力隊を採用したい、という話だったと思うのですが、

	今の話だと、協力隊が学校に行くということでしょうか。
大久保係長	あくまでも司書と協力隊が連携して行う予定としています。
碓井副町長	それでは、2人で行うというイメージなのですね。
大久保係長	そのように考えています。
三本町長	私もこのことを初めて聞いたので、よくわかりませんが、中学校の図書室整備に新たな協力隊を活用したいということなのですね。今いる協力隊ではなく、新しい人ということですね。
大久保係長	はいそうです。
三本町長	それでは改めて、教育委員さんもこの総合教育会議にこの資料を出すにあたって、内容を議論されてきていると思いますので、特にこれという思いがあればお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。
堀教育長職務代理	私は、まず「ななかまの活動」、そして、「中学校の図書室が整備されて変わること」、「小中一貫教育に向けた議論」に期待しています。 あと、コミュニティ・スクールについては、既に基盤ができてい部分もあるので、どこまでどのように取り組んでいく必要があるのか、という思いはあります。
三本町長	本当の意味でのコミュニティ・スクールは、地域全体で学校運営を考えるということで、今、現にPTAとして在籍しているからとか、そういうことではなく、コミュニティ全体として関わっていくような仕組みに変えていくということなのだと思います。現に、学習田をやっているといっても、実際に関わっているのは、子どもや孫がいる一部の農家さんだけで、他の農家さんは関わっていないように思います。子どもがいるから義務的に学校に関わるのではなく、本当の意味でのコミュニティ・スクールは、子どもや孫がいなくても、学校教育に携わっていく、地域として、何かできることがあるのではないかと思います。今、堀さんが活動されている音楽活動もその一翼を担っているとも思います。矢萩委員も、英語教育活動というところで、同様かなと思います。
矢萩委員	コミュニティ・スクールは、組織として必要なものであるとは思いますが。町の人を巻き込んでいくにも、やはり、何か組織がないと動かないという実態もあると思います。現に「学校教育」というと、関係あるのは、保護者や先生、その他関係者だけで、一町民は他人事という感覚だと思うので、巻き込むためには、一定の組織があつて、意識づけをしていく必要があると思います。よく家に例えて言われるのは、基礎は親、柱は先生、それを繋ぐ筋交いがないと、家は丈夫にはならずすぐに壊れてしまう。その筋交いの役割が、町民だったり、少し上のお兄ちゃんお姉ちゃんだったり、地域の人たちで、その人間関係が、子ども達にとっては、とても大事なことだと思います。今この時代だと、自然にはなかなか生まれないので、ある程度最初は、組織される必要はあるように思います。それが継続していく中で、醸成されていけばいいと思いますので、私は、コミュニティ・スクールにとっても期待しています。
三本町長	それぞれの思いがばらばらだと1つの目標がぶれてしまうと思いますので、みんなで共通の意識、視点の中で事業に取り組んでいただければと思います。
三本町長	その他、ありませんか。
林委員	先ほど水田の話もありましたが、やはり奈井江町は水田がメインですので、モノを育てる苦労なども含め、伝えていきたいと思います。 あと、子ども達のスクールバス確保についてもお願いいたします。

三原委員	町民委員会に参加した際に感じたのは、高齢の方たちが、奈井江のことを伝えていきたいという熱意があるということです。みんな町の先生になりたいがっているのだなと思ったので、コミュニティ・スクールといった組織があれば、そういう方が出てきやすい場所になるのではないかと思います。
三本町長	あとは、ありませんか。
矢萩委員	最初の学力の話に戻ってしまうのですが、私たちの小さかった時代は、今のようには民間の塾や、公設塾もありませんでした。でも、多少学力が低かったとしても、それなりに成長し、自立し生活しています。しかし、今の子ども達は、勉強、習い事、体力もつけなくてはいけない、そして遊びもとなると時間がありません。そのバランスを考えてあげる必要もあると思います。子どもは、やりたくないことばかりさせられていると、自分で考えることをせず、させられている感ばかりになっています。「遊び」は学ぶ事がたくさんあります。友達との待ち合わせ、約束の大切さ、計画的に生活すること、何か予期せぬことがあったときに対応の仕方など色々あります。基礎学力的なことは、言ってしまうとAI技術が発達し、人間より正確に行うことができますが、考えることや発想力、応用力は人間にしかできないことなので、これからの子ども達は、その力を伸ばすことの方が大事なのではないかと思います。勉強も大切だと思いますが、遊びの時間もしっかりとってあげることで、そのバランスが課題だと思っています。
堀教育長職務代理	私は子ども達に。義務教育終了段階で、ある程度の学力は身に付けておいて欲しいという思いはあります。公設塾開塾の際にも、基礎学力の定着というところで、その思いがありました。
三本町長	義務教育の意味としては、子どもには学ぶ権利があって、親は子どもに教育を保障する義務があるということで、子どもが学ぶ義務があるということではないのです。
堀教育長職務代理	親にその義務があるのであれば、子どもも学ぶ義務があるといってもいいと思います。
三本町長	確かに今の時代その考えもあります。今は、大学進学も当たり前で、大学まで行かせるのが親の義務だという風潮さえあります。
堀教育長職務代理	そもそも、学校の授業時間の中で、しっかり理解できれば、何の問題もないわけですよ。そうすれば、放課後もしっかり遊べるということです。
三本町長	これについては、長い間、解決できない教育の課題でもありますね。繰り返すにはなりますが、基礎学力の定着向上は大きな柱ですし、人間づくりということも併せて重要なことだと思います。総合教育会議では、みなさんの意見と私の意見をそれぞれ議論する場だと思っていますので、このように議論しながら、共通理解をしていければと思います。
三本町長	それでは続いて「②令和4年度教育費予算計上額比較表（歳出）」について、事務局の説明をお願いします。
事務局	② 令和4年度教育費予算計上額比較表（歳出） 教育支援係部分・・・井上係長 文化振興係部分・・・桜井主幹
三本町長	こちらの数字につきましては、令和4年度教育費予算計上額比較表ということですので、あくまでも係が予算を要求している段階であり、これから全体の予算を見ながら査定を行っていくこととなります。私もこの数字については初めて説明を受けたところでもありますので、今後じっくり吟味させていただきたいと思っています。

三本町長	それでは、次第5番目「その他」、事務局から何かありますか。
松本局長	ありません。
相澤教育長	それでは、第1回奈井江町総合教育会議を終了いたします。 本日はお疲れさまでした。
	6. 閉会 15:00